

## 大学校風と その活用をめぐる調査考察 —大学の個性化に向けて—

- 大川 一毅（岩手大学）  
大野 賢一（鳥取大学）  
鳶田 敏行（茨城大学）



岩手大学  
IWATE UNIVERSITY



鳥取大学  
Tottori University



茨城大学  
Ibaraki University

### 研究の出発点

2004年の「国立大学法人化」時より評価業務に関わる者としての実感  
「個性化」するよりも「標準化」される大学

大学の個性や魅力を引き出す自己点検・評価（大学評価）ができないか。

- 今日の日本において大学評価は定着。内部質保証体制も構築され、ディプロマポリシーに則した学修成果の検証も進んだ。
- これら評価は、導入当初にあって「大学の個性」伸張を強調していた。
- しかし導入から約20年を経て、「個性の伸張」において、大学評価は果たしてどれだけ寄与してきただろうか。

現行の大学評価を否定するのではなく、大学評価が普及定着した現在だからこそ、

自学の個性や魅力を確認・創出を図る大学評価ができないか。

大学それぞれが有する特性の自覚的向上に資する「活性化評価」の工夫とそのための指標設定。

## 大学校風への着目

実施してきた「卒業生サービス研究」や「同窓会・保護者会による母校・在学生支援」研究等からの知見

- ・学生にとってポジティブ(建設的・積極的)に感じられる校風は大学諸活動の実践意欲を促進。これら経験による満足度の蓄積は大学への帰属意識も高める。
- ・そうした校風は、志願者に魅力的であり(進学誘因力)、卒業生には誇りとなる(母校支援誘因力)。
- ・校風が大学の社会的評価に影響していることは多くの者が経験的に認識。
- ・大学が自らの魅力強化を図る事業を意図するならば、独自の校風を基盤とした施策を選択する方が実現性は高く、参加者の意識共有も容易。
- ・歴史の浅い大学であっても、校風づくりは学生・教職員・校友・保護者が、それぞれの立場で関与しうる行動目標となる。卒業生は大学ホームページや同窓会報などで校風を語る人が多い。

3

## 参考補足:「私立大学協会ガバナンスコード」でも「校風」に言及

日本私立大学協会憲章 「私立大学版 ガバナンス・コード」 <第1版> 2019(平成31)年3月

### 「私立大学版 ガバナンス・コード」

以下、本協会が制定した「私立大学版ガバナンス・コード」を提示する。本協会全加盟大学は建学の精神・理念に従い、これを規範として、それぞれの私立大学の実状に応じて、公共性と自主性を基本とした自律的なガバナンス・コードを制定されたい。

### 第1章 私立大学の自主性・自律性(特色ある運営)の尊重

私立大学の存在意義は、建学の精神・理念にあり、それに基づく独特の学風・**校風**が自主性・自律性として尊重され、個性豊かな教育・研究を行う機関として発展してきました。

(以下省略)

4

## 大学の個性化に向けた「校風」研究の着手

大学の校風は高等教育研究の題材としても看過されている。

これには校風の「実質」が曖昧なことにもあるのかもしれない。

ならば校風の要素を具体的に把握し、これを検証可能な可視的指標にかえて、それを大学評価に活用し、大学の個性化につなげることはできないか。



### 研究課題

大学の価値を新たな側面から認識する評価項目・指標の策定とこれを活用した大学評価

「校風」を研究の対象に設定。

校風要素の可視化。校風認識機会の把握。校風活用事例の収集

5

### 本報告の内容

大学の活力ある個性化を考えるとき

「校風」とは具体的にどのようなものなのか。

大学の運営に校風を活用できるのか。

- ・ 大学校風に関する「認識(感じ方)」の把握にむけた2023年調査の結果概要報告
- ・ 大学やそれに関わる立場の違いからの校風認識傾向
- ・ 大学構成員が大学校風を意識する「場」や「機会」の把握
- ・ 校風を活かした事例、校風をめぐる意識(自由記述から)

6

## 校風とは（本報告における校風の定義）

本報告で「大学校風」とはその大学独自の雰囲気や気風を言うこととする。

校風は「建学の精神」と関わりながらも同一ではない。

校風は歴史的伝統、地理的環境などにも影響を受け、大学の様々な構成員により世代にわたって可塑的に醸成・継承され、ときに刷新される。

どの大学にもなんらかの「校風」がある。

校風は大学をある方向性に動かしていく自覚的・無自覚的な働きであり、その大学たらしめるアイデンティティともいえる。

7

## 大学校風の意識をめぐる2023年調査（今回報告）

「大学校風をめぐる意識調査(アンケート)」の実施(2023年3月)

### 【実施目的】

前年度web調査結果をふまえ、大学構成員・関係者から「校風に関する意識(実感)」や「校風を活用した教育・研究の事例」等を収集。その分析結果を「大学の個性化・活性化」につなげることを企図。

### 【調査対象】

2023年3月、全国大学の広報777部署、校友会(同窓会)643事務局、教育後援会(保護者会)534事務局などに、「大学校風の認識に関わる調査アンケート」の回答を依頼。4月末日回答期限。

※ 回答は「組織」の公式回答ではなく、個人単位での回答を依頼。5月現在で355回答。

### 【設問内容】

1) 回答者の属性情報、2)校風要素の認識、3)校風を活かした大学運営への教示、4)校風要素「自由」に対する考えや経験、の4区分。

### 【回答方法】

調査の趣旨と回答用紙を郵送。設問はWebでも提示し、オンライン回答も可とした。

電子ファイルや紙面での回答も可。回答は無記名で実施。

各設問について「単一回答」、「多肢選択法」、「自由記述欄」を組み合わせて確認。

# 大学校風の要素に対する実証調査（回答者について：355回答）

## 【回答者の「立場」について】

	大学教員	大学職員	卒業生組織	保護者組織	その他	総計
国立大学	34	46	12	--	8	100
公立大学	5	28	15	6	1	55
私立大学	25	128	37	8	2	200
総計	64	202	64	14	11	355

回答者は、全体の半数強が大学職員。

大学教員及び同窓会関係者が約2割。

保護者組織の回答は少なかった。

その他は「学生」あるいは「卒業生（同窓会関係者以外）」など。

## 【回答者が関わる「大学の規模」】

	大規模大学	中規模大学	小規模大学	総計
国立大学	8	72	20	100
公立大学	2	12	41	55
私立大学	31	91	78	200
総計	41	175	139	355

本調査では「大規模大学」は全学生数10,000人以上、「中規模大学」は2,000～10,000人、「小規模大学」は2,000人未満とした。国立大学は中規模大学、公立大学は小規模大学、私立大学は中・小規模大学からの回答数が多い。

## 【回答者が関わる大学の「開設時期」】

	戦前に設置	戦後に設置	平成以降に設置	その他 (未回答も含む)	総計
国立大学	23	64	10	3	100
公立大学	3	20	30	2	55
私立大学	36	110	52	2	200
総計	62	194	92	7	355

回答者が関係する大学の設置時期は戦後昭和期設置の「新制大学」が半数強。国・私立大学は「旧制大学」系譜の関係者、公私立大学は「平成以降」の新設大学関係者からの回答も多い。

9

2022年web調査（昨年報告）

ご参考：webで語られた校風の「キーワード（校風要素）」

大学ホームページ（2022年3月現在の国公私立全788大学）から校風言及例（総数543項目）を抽出し、いかなる要素とあわせて語られているかをテキスト分析した。また、誰が、どう校風を語っているかも確認し、その傾向把握につとめた。

様態・行動規範	抽出数	発言者						設置別			
		学生	卒業生	学長・学部長・理事長	教員	同窓会長・後援会長	志願者	大学	国立	公立	私立
自由	146	22	53	11	7	2	1	37	34	11	101
個性（尊重）	35	4	8	7	1	1	3	14	3	3	29
自主（的）	22	5	4	1	0	0	0	10	4	3	15
真面目	13	3	3	5	0	0	0	0	2	3	8
多様性	13	1	3	4	0	1	0	4	3	0	10
誠実・至誠	11	1	1	5	0	1	0	3	0	0	11
質実剛健	10	0	3	0	0	0	1	3	1	0	9

- ・大学校風を形成する要素として「自由」が語られる場合が圧倒的に多く、卒業生、在学生在が強調。
- ・「個性尊重」については、学生がこれを校風として言及することは必ずしも多くはない。
- ・校風言及は大学組織の他、卒業生によるものが多い。
- ・校風の捉え方は、発言者によっても異なる。大学はこのことを理解しているか。

10

# 「校風に関する意識」 回答比率の高い項目(全体)

五段階選択回答  
肯定的回答：5強く感じる 4感じる  
否定的回答：2あまり感じない 1全く感じない

認識する校風要素	回答数	回答比率	順位
学生を大切に	286	81%	1
教員と学生の距離が近い	280	79%	2
地域や社会との関係が強い	267	75%	3
誠実・実直(真面目・地道)な気風	256	72%	4
のんびり、穏やかな気風	255	72%	5
家庭的、アットホームな雰囲気	242	68%	6
おおらかな気風	236	66%	7
あたたかさ、ぬくもりがある	228	64%	8
明るい気風	227	64%	9
静かで落ち着いている	225	63%	10
価値観が継承されている	221	62%	11
学生が伸びていく	219	62%	12
自由である	216	61%	13
主体性を尊重する	216	61%	13
勉学に熱心	213	60%	15
教育重視の気風	211	59%	16
学生が元気である	204	57%	17
保守的な気風	200	56%	18
努力する気風	194	55%	19
独自性がある(ユニーク)	193	54%	20
友人、先輩・後輩が増える	193	54%	20
職業志向の雰囲気がある	190	54%	22
挑戦・探求を尊重する	188	53%	23
建学者の存在感がある	184	52%	24

認識しない校風要素	回答数	回答比率	順位
芸術尊重の雰囲気がある	175	49%	1
先進、進取の気風	139	39%	2
国際性(グローバル感)がある	129	36%	3
気品がある。洗練されている	119	34%	4
建学者の存在感がある	109	31%	5
研究重視の気風	109	31%	5
質実剛健な気風	97	27%	7
礼儀作法、マナーを重視	86	24%	8
母校愛、一体感がある	80	23%	9
創造力がある	79	22%	10
独自性がある(ユニーク)	73	21%	11
活気や賑わいがある	72	20%	12
開放的である	72	20%	12
職業志向の雰囲気がある	69	19%	14
価値観が継承されている	64	18%	15
挑戦・探求を尊重する	62	17%	16
多様性(ダイバーシティ)を尊重	62	17%	16
学生に個性がある	60	17%	18
教育重視の気風	48	14%	19
自由である	47	13%	20
努力する気風	46	13%	21
勉学に熱心	44	12%	22
主体性を尊重する	42	12%	23
おおらかな気風	41	12%	24

認識しない校風について、見方によれば、その校風があれば大学の個性的校風になりうる。

「学生を大切に」「教員と学生の距離が近い」など、師弟関係・学生指導環境の校風を認識。「真面目、のんびり、おおらか」なども校風として認識。この校風を強調・評価する学生も多い。

# 「校風に関する意識」 回答比率の高い項目 (教員 回答数64)

認識する校風要素	回答数	回答比率	順位
学生を大切に	49	77%	1
のんびり、穏やかな気風	47	73%	2
教員と学生の距離が近い	47	73%	2
静かで落ち着いている	46	72%	4
保守的な気風	44	69%	5
地域や社会との関係が強い	43	67%	6
家庭的、アットホームな雰囲気	39	61%	7
学生が伸びていく	39	61%	7
おおらかな気風	38	59%	9
誠実・実直(真面目・地道)な気風	38	59%	9
教育重視の気風	36	56%	11
職業志向の雰囲気がある	36	56%	11
勉学に熱心	35	55%	13
自由である	34	53%	14
独自性がある(ユニーク)	34	53%	14
価値観が継承されている	32	50%	16
明るい気風	32	50%	16

認識しない校風要素	回答数	回答比率	順位
国際性(グローバル感)がある	29	53%	34
先進、進取の気風	28	52%	33
芸術尊重の雰囲気がある	23	50%	32
建学者の存在感がある	10	45%	29
気品がある。洗練されている	24	45%	29
創造力がある	21	39%	25
質実剛健な気風	17	36%	23
礼儀作法、マナーを重視	16	34%	22
活気や賑わいがある	16	33%	21
価値観が継承されている	16	30%	19
多様性(ダイバーシティ)を尊重	16	30%	19
挑戦・探求を尊重する	17	28%	18
母校愛、一体感がある	16	28%	18
研究重視の気風	12	25%	16
努力する気風	14	23%	15
開放的である	14	23%	15
学生に個性がある	13	23%	15
勉学に熱心	13	20%	13
明るい気風	9	20%	13
あたたかさ、ぬくもりがある	10	20%	13
自由である	11	19%	12
主体性を尊重する	12	19%	12
独自性がある(ユニーク)	9	19%	12

「今日の大学が志向する側面」での校風意識は低い。国際性や多様性など、

全体回答項目と傾向は類似。教員は学修・学生指導、教学的側面に校風を認識。教員はそうした側面から校風形成に関われる。

「校風に関する意識」 回答比率の高い項目 (職員 202回答)

母校愛、一体感への否定的回答は上位。その事についての「危機意識」の反映回答か？

認識する校風要素	回答数	回答比率	回答順位
学生を大切にする(指導、支援)	169	84%	1
教員と学生の距離が近い	164	81%	2
地域や社会との関係が強い	153	76%	3
誠実・実直(真面目・地道)な気風	145	72%	4
家庭的、アットホームな雰囲気	144	71%	5
のんびり、穏やかな気風	136	67%	6
あたたかさ、ぬくもりがある	133	66%	7
おおらかな気風	132	65%	8
価値観が継承されている	129	64%	9
明るい気風	127	63%	10
学生が伸びていく	125	62%	11
主体性を尊重する	122	60%	12
学生が元気である	122	60%	12
教育重視の気風	121	60%	14
勉学に熱心	118	58%	15
静かで落ち着いている	116	57%	16
自由である	115	57%	17
挑戦・探求を尊重する	112	55%	18
保守的な気風	112	55%	18
努力する気風	112	55%	18
建学者の存在感がある	111	55%	21

認識しない校風要素	回答数	回答比率	回答順位
芸術尊重の雰囲気がある	100	50%	1
先進、進取の気風	83	41%	2
研究重視の気風	75	37%	3
気品がある。洗練されている	73	36%	4
国際性(グローバル感)がある	72	36%	5
建学者の存在感がある	57	28%	6
質実剛健な気風	55	27%	7
母校愛、一体感がある	46	23%	8
独自性がある(ユニーク)	44	22%	9
開放的である	44	22%	9
礼儀作法、マナーを重視	41	20%	11
創造力がある	40	20%	12
職業志向の雰囲気がある	38	19%	13
活気や賑わいがある	36	18%	14
価値観が継承されている	33	16%	15
自由である	32	16%	16
挑戦・探求を尊重する	32	16%	16
学生に個性がある	30	15%	18
多様性(ダイバーシティ)を尊重	28	14%	19
おおらかな気風	26	13%	20
努力する気風	25	12%	21
主体性を尊重する	24	12%	22
教育重視の気風	24	12%	22

教員回答と同様に学生指導など教学的側面の校風を認識。「地域性・社会との関係が強い」の校風も意識する。「建学者の存在感」などの認識は教員と異なる。「価値観の継承」認識は教員回答比率よりも高い。

「校風に関する意識」 回答比率の高い項目 (同窓会 回答数64)

認識する校風要素	回答数	回答比率	順位
誠実・実直(真面目・地道)な気風	53	83%	1
地域や社会との関係が強い	53	83%	1
教員と学生の距離が近い	53	83%	1
明るい気風	52	81%	4
学生を大切にする(指導、支援)	51	80%	5
のんびり、穏やかな気風	49	77%	6
価値観が継承されている	48	75%	7
おおらかな気風	48	75%	7
自由である	47	73%	9
あたたかさ、ぬくもりがある	47	73%	9
友人、先輩・後輩が増える	47	73%	9
主体性を尊重する	46	72%	12
勉学に熱心	46	72%	12
家庭的、アットホームな雰囲気	45	70%	14
静かで落ち着いている	45	70%	14
学生が伸びていく	44	69%	16
母校愛、一体感がある	43	67%	17
建学者の存在感がある	40	63%	18
独自性がある(ユニーク)	40	63%	18
学生が元気である	40	63%	18
教育重視の気風	39	61%	21
活気や賑わいがある	39	61%	21

同窓会組織ゆえに、母校愛・一体感という校風認識について、肯定も否定も回答率上位となる。

認識しない校風要素	回答数	回答比率	順位
芸術尊重の雰囲気がある	25	39%	1
建学者の存在感がある	15	23%	2
国際性(グローバル感)がある	15	23%	2
先進、進取の気風	14	22%	4
質実剛健な気風	13	20%	5
独自性がある(ユニーク)	11	17%	6
礼儀作法、マナーを重視	11	17%	6
多様性(ダイバーシティ)を尊重	11	17%	6
学生に個性がある	11	17%	6
職業志向の雰囲気がある	10	16%	10
教育重視の気風	9	14%	11
研究重視の気風	9	14%	11
気品がある。洗練されている	9	14%	11
活気や賑わいがある	9	14%	11
創造力がある	8	13%	15
挑戦・探求を尊重する	8	13%	15
保守的な気風	8	13%	15
開放的である	7	11%	18
母校愛、一体感がある	7	11%	18
家庭的、アットホームな雰囲気	6	9%	20
学生が元気である	6	9%	20
学生が伸びていく	6	9%	20

卒業生や同窓会の回答では、学生時代の経験から認識される大学の雰囲気や環境に由来する意識が増える。「交友関係」に由来する校風や「自由」という回答比率も高くなる。

「校風に関する意識」設置者別 回答比率の高い項目 (設置別回答比率)

強く認識する校風要素	全回答件数	全回答比率	順位	設置別回答比率		
				国立100	公立55	私立200
学生を大切にする(指導、支援)	286	81%	1	74%	82%	84%
教員と学生の距離が近い	280	79%	2	69%	84%	83%
地域や社会との関係が強い	267	75%	3	75%	82%	74%
誠実・実直(真面目・地道)な気風	256	72%	4	74%	69%	72%
のんびり、穏やかな気風	255	72%	5	73%	76%	70%
家庭的、アットホームな雰囲気	242	68%	6	52%	75%	75%
おおらかな気風	236	66%	7	63%	58%	71%
あたたかさ、ぬくもりがある	228	64%	8	49%	53%	71%
明るい気風	227	64%	9	50%	67%	70%
静かで落ち着いた	225	63%	10	78%	76%	53%
価値観が継承されている	221	62%	11	39%	64%	74%
学生が伸びていく	219	62%	12	47%	60%	70%
自由である	216	61%	13	58%	60%	63%
主体性を尊重する	216	61%	13	49%	73%	64%
勉学に熱心	213	60%	15	68%	75%	52%
教育重視の気風	211	59%	16	56%	64%	60%
学生が元気である	204	57%	17	48%	42%	67%
保守的な気風	200	56%	18	22%	40%	58%
努力する気風	194	55%	19	55%	64%	52%
独自性がある(ユニーク)	193	54%	20	51%	53%	57%
友人、先輩・後輩が増える	193	54%	20	47%	45%	61%
職業志向の雰囲気がある	190	54%	22	45%	55%	58%
挑戦・探求を尊重する	188	53%	23	49%	55%	55%
建学者の存在感がある	184	52%	16	54%	33%	75%

七割以上の回答比率枠を着色

国立大学では「価値観の継承」や「建学者の存在感」は高回答比率。国立大学では「価値観の継承」や「保守的」は低回答比率。公立大学・私立大学とは意識が異なるのか。国立大学は、「S」比率など、学生との距離は「近い」はずだが、公立大学・私立大学とは意識が異なるのか。

参考資料:「校風に関する意識」 回答比率の高い項目 (教育後援会・保護者会)

教育後援会(総回答数14) 肯定的回答

校風要素	回答数	回答比率	順位
のんびり、穏やかな気風	12	86%	1
学生を大切にする(指導、支援)	11	79%	2
教員と学生の距離が近い	11	79%	2
自由である	10	71%	4
教育重視の気風	10	71%	4
誠実・実直(真面目・地道)な気風	10	71%	4
主体性を尊重する	9	64%	7
勉学に熱心	9	64%	7
おおらかな気風	9	64%	7
努力する気風	9	64%	7
静かで落ち着いた	9	64%	7
あたたかさ、ぬくもりがある	9	64%	7
学生が伸びていく	9	64%	7
友人、先輩・後輩が増える	9	64%	7
価値観が継承されている	8	57%	15
挑戦・探求を尊重する	8	57%	15
明るい気風	8	57%	15
保守的な気風	8	57%	15
建学者の存在感がある	7	50%	19
家庭的、アットホームな雰囲気	7	50%	19
地域や社会との関係が強い	7	50%	19
職業志向の雰囲気がある	7	50%	19

否定回答

校風要素	回答数	回答比率	順位
芸術尊重の雰囲気がある	8	57%	1
開放的である	5	36%	2
国際性(グローバル感)がある	5	36%	2
独自性がある(ユニーク)	4	29%	4
研究重視の気風	4	29%	4
気品がある。洗練されている	4	29%	4
先進、進取の気風	4	29%	4
質実剛健な気風	4	29%	4
母校愛、一体感がある	4	29%	4
礼儀作法、マナーを重視	4	29%	4
価値観が継承されている	3	21%	11
活気や賑わいがある	3	21%	11
あたたかさ、ぬくもりがある	3	21%	11
多様性(ダイバーシティ)を尊重	3	21%	11
創造力がある	2	14%	15
保守的な気風	2	14%	15
地域や社会との関係が強い	2	14%	15
職業志向の雰囲気がある	2	14%	15

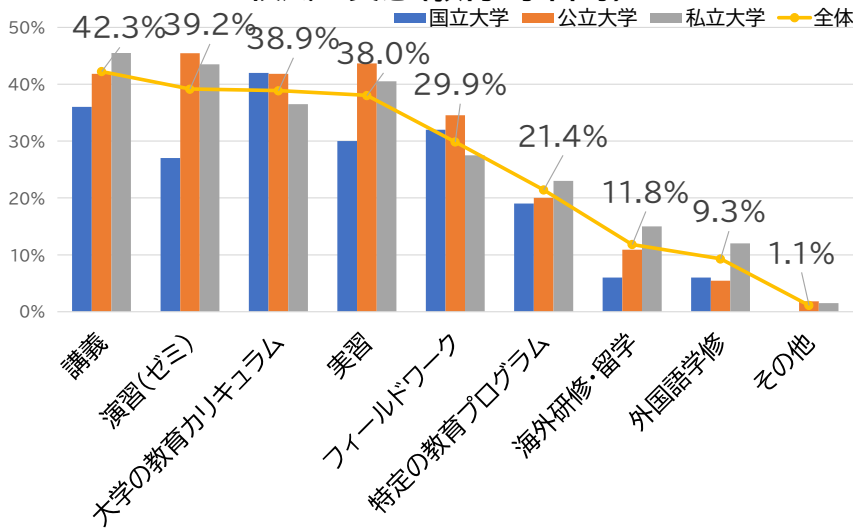
教育後援会の回答は、保護者として大学に望む意識が反映。大学の積極的な取り組みや事業に関わる校風を意識する回答は少ない。大学が望む方向性(校風)よりも、子弟の成長や保護育成に関わる校風を求めているのか。



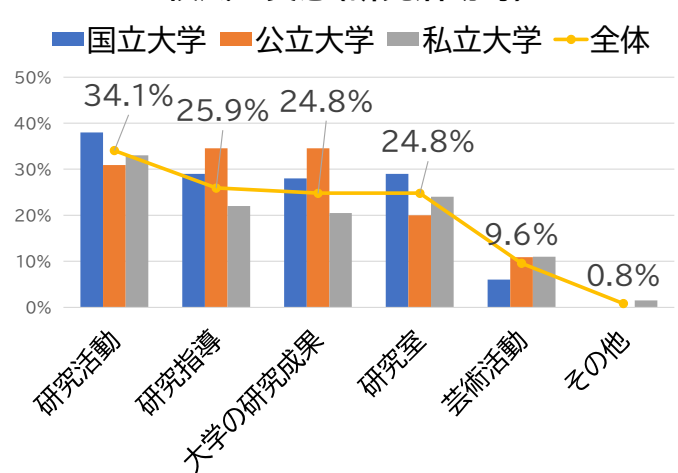
## 校風を認識する状況・機会（教育・研究時）

いつ・どこで

### 校風の実感(教育・学習時)



### 校風の実感(研究活動時)



私立大学では講義時、公立大学は演習時、国立大学ではカリキュラムに校風を感じるという回答が多い。

大学における校風形成や校風の認識は、平素の授業活動や学修指導の丁寧さ、あるいは教員との距離の近さとも関係している。

研究時に大学の校風を感じるという回答は、私立大学の場合、低回答率。

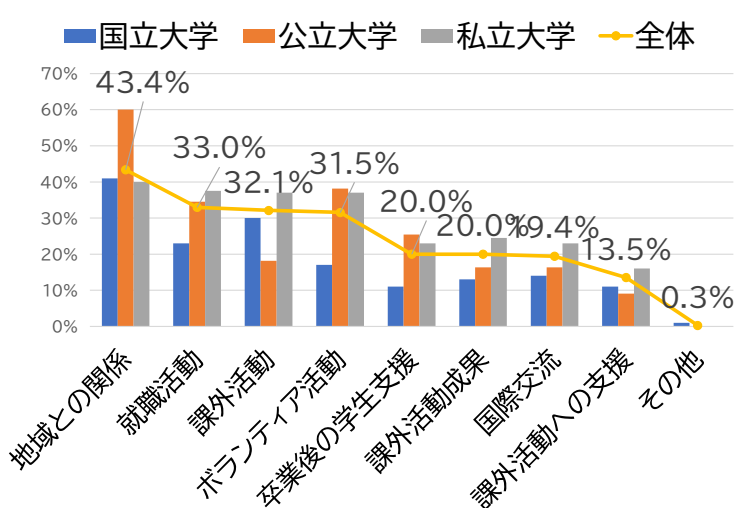
公立大学では研究指導やそれぞれの研究成果に校風を感じる傾向がでる。

国立大学は、研究活動において校風を感じる機会がある。

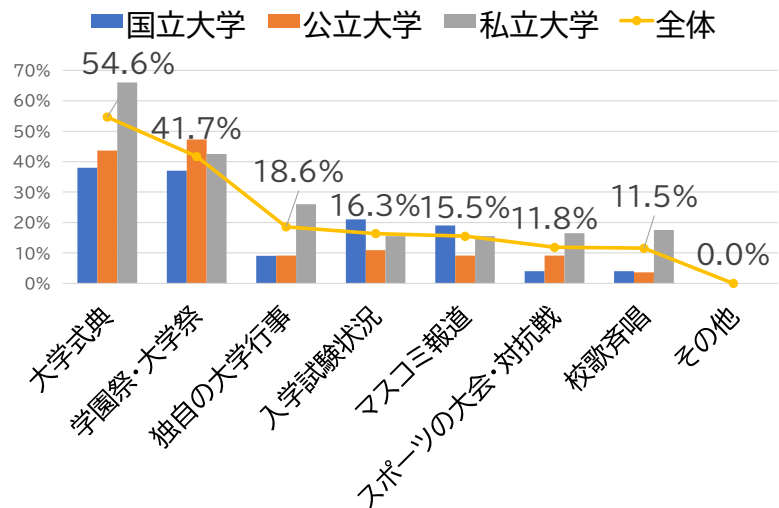
17

## 校風を認識する状況・機会（課外活動・就職活動時／大学行事）

### 校風の実感(課外活動・就職活動時)



### 校風の実感(大学行事等)



私立大学では課外活動時に校風を認識とする傾向。

国立大学では、課外活動と校風とが結びつかない。

公立大学では地域との関係性に校風がでる。

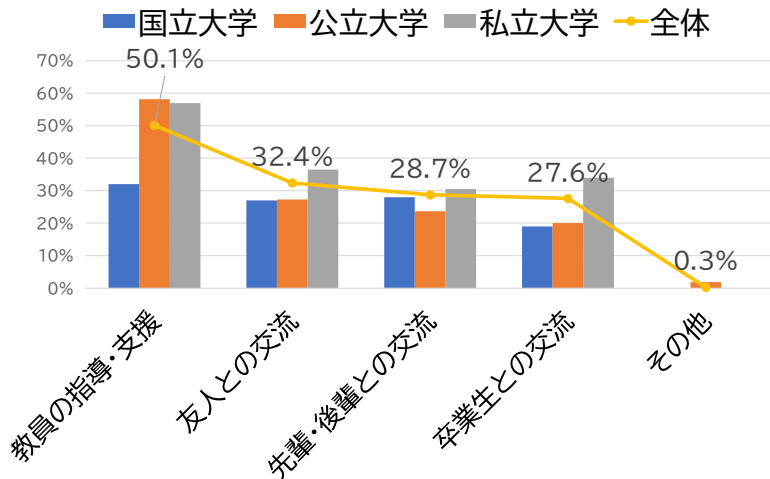
私立大学では大学式典や大学行事に校風を実感。校歌斉唱の機会がある私立大学では、そこに校風を見いだす回答があるのも特色。

国立大学における大学行事は校風を感じさせるものではないが、入学試験やマスコミ報道に校風を感じるという回答が全体平均より高い。

18

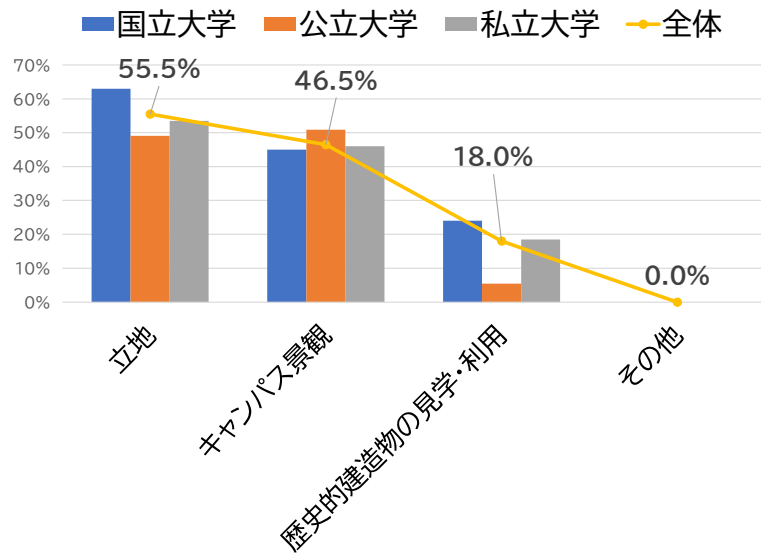
## 校風を認識する状況・機会（教員や友人との交流時／景観・立地）

### 校風の実感(教員・友人との交流時)



私立・公立大学ともに「教員の指導・支援」のありかたから校風を実感する回答が高い。  
 これもふくめて私立大学では「人的交流」の中で校風を見いだす。  
 (人的ネットワーク形成が「私学の強み」か?)  
 その点 国立大学では全学的には概して淡泊?

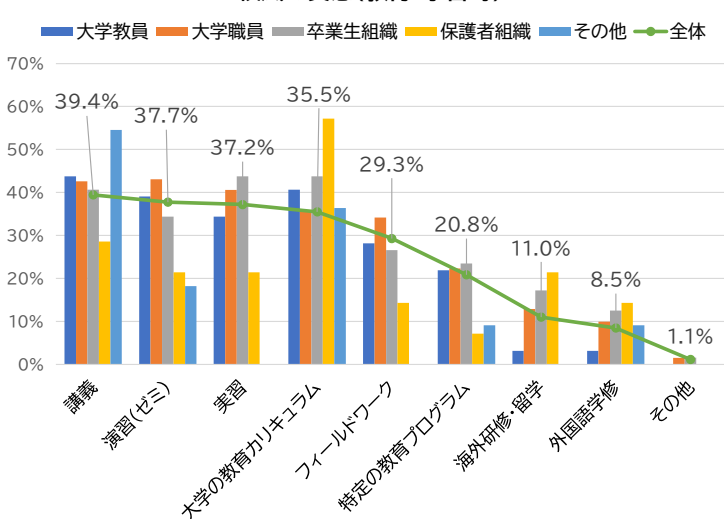
### 校風の実感(景観・立地)



大学の立地や景観は、いずれの回答比率も高く、校風形成のための重要な要素。  
 (教学マネジメントにあって「キャンパス景観」を「重要要素」と認識しているか?)

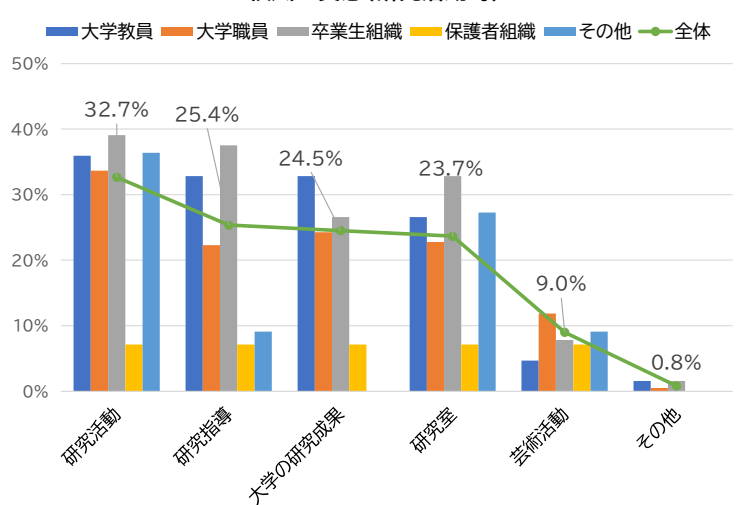
## 校風を認識する状況・機会（教育・研究時） 回答者別

### 校風の実感(教育・学習時)



全体として、「講義時間」に大学校風を感じるという回答比率が高くなっている。

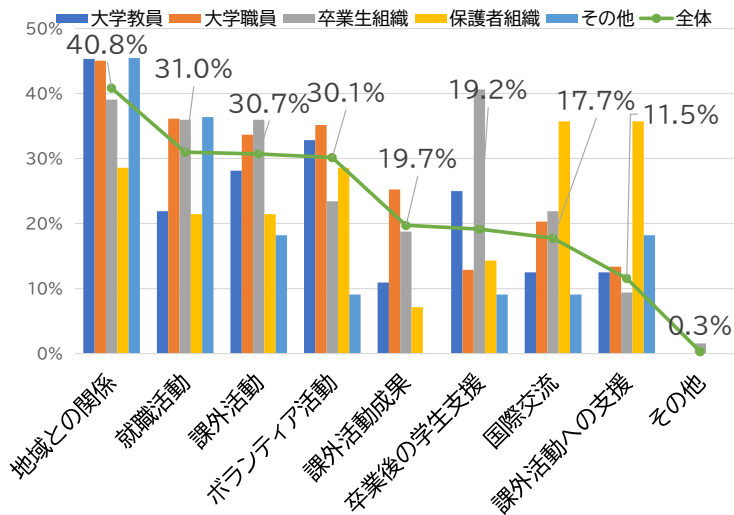
### 校風の実感(研究活動時)



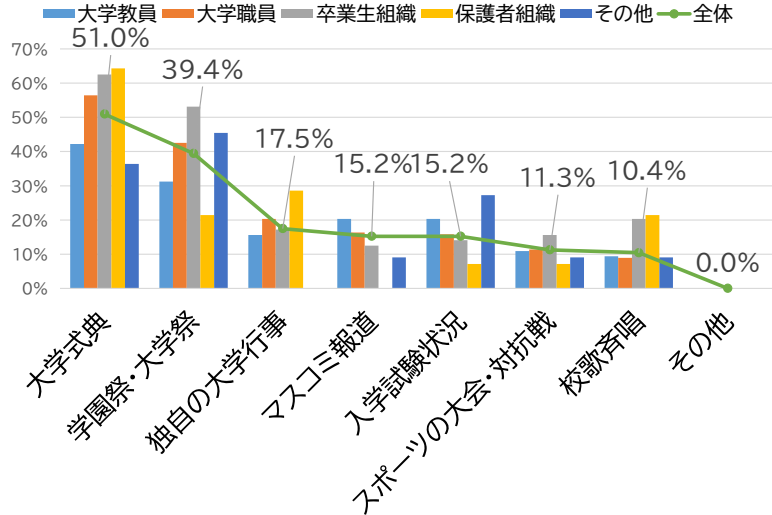
「研究活動」時に校風を感じるという回答するのは教員と同窓会組織。  
 卒業生については、卒業研究に取り組んだことが、学生時代の達成感になっており、それが校風認識とつながってくるのか。

## 校風を認識する状況・機会（課外活動・就職活動時／大学行事） 回答者別

### 校風の実感(課外活動・就職活動時)



### 校風の実感(大学行事等時)

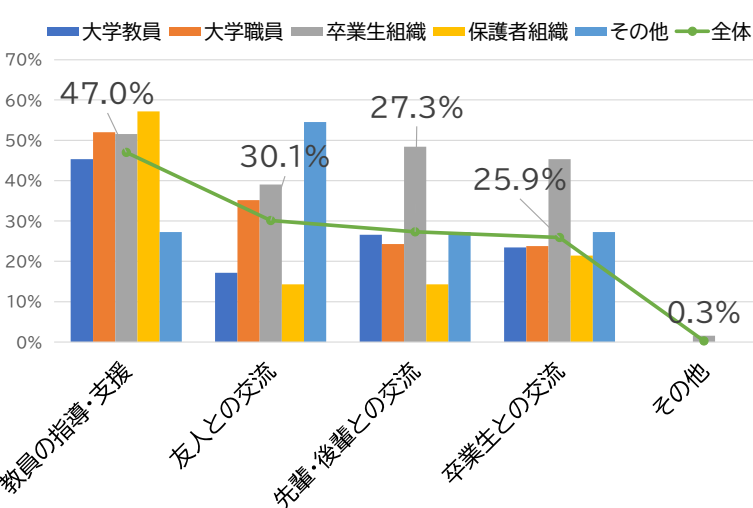


課外活動時に校風を実感するのは卒業生組織と同窓会組織。教員はここであまり校風を実感しない。卒業生組織と職員の回答比率は近く、卒業生の認識は職員が理解・代弁可能ともいえる。

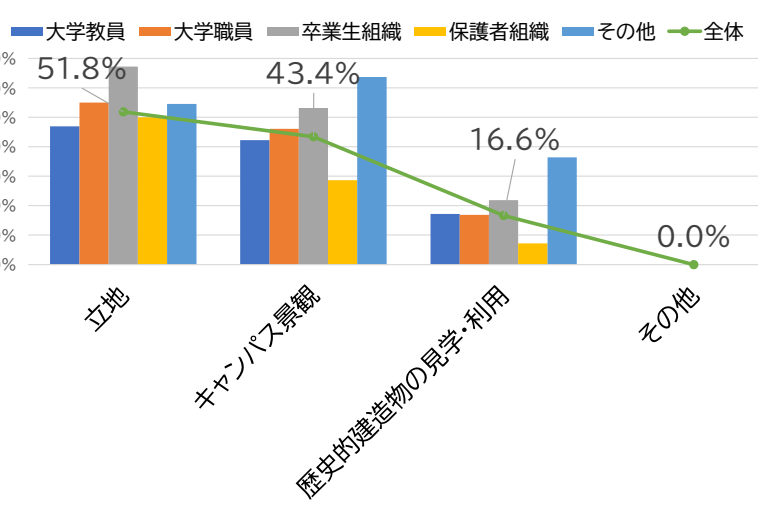
課外活動時に教員が「校風」を感じにくいのは、教員が学生に「寄り添う」のは研究や授業など「正課内」のことであり、「正課外」のサークルでの様子などは、やはりうかがい知ることが困難なのか。(自由記述)

## 校風を認識する状況・機会（教員や友人との交流時／景観・立地） 回答者別

### 校風の実感(教員・友人との交流時)



### 校風の実感(景観・立地)



卒業生にとって大学の校風とは、学生時代に形成した人的交流の中に感じるともいえる。教員はそのことをどれだけ認識しているか。(他者との交流機会の提供)

人的交流機会の提供工夫は、大学職員や同窓会の知見・発想(アイデア)に期待することが有意義。

大学の立地や景観は、卒業生にとって、そのまま校風認識につながるものがあるようだ。大学としてこれに関する卒業生からの意見聴取は重要かもしれない。(卒業生調査の項目に入っているか?)

いずれの活動が有効か、優れているのか、という視点ではなく、  
各大学の校風から何が実行可能か。実行しやすいか。大学の活性化につながるか。

## 教育活動

学生に寄り添った丁寧な指導、卒業・研究指導、人的交流も伴うアクティブラーニング

## 地域との交流・ボランティア

地域と協働した諸活動、学生の自発的事業の支援

## 学生支援、学生と卒業生との連携

学生に対する経済支援、学生支援を念頭に置いた地域や卒業生組織との協働

## 歴史・継承、自校教育

職業人としての社会規範育成にむけた奉仕・ボランティア活動(医科大学)

キャンパスやその景観を活かしたフィールドワーク、ボランティア・課外活動、自校教育 23

## まとめとして

### 大学校風に関する「認識(感じ方)」の把握にむけた調査結果概要報告

- ※ 大学校風は印象・イメージだけのものではなく、教育・研究、課外活動、儀式行事、大学事業など  
具体的活動を踏まえて醸成・確立・継承。(自由記述:「継承してほしい校風」参照)

### 大学やそれに関わる立場の違いからの傾向分析

- ※ 大学構成員によって校風の感じ方も異なる。

大学側は、学生・卒業生が語る校風と、大学や学長等側が認識する校風を把握しておく必要がある。

→ 過去調査結果:大学のイメージ形成や社会的評価にあって、卒業生による校風認識の影響力は大。

### 大学校風を意識する場や機会の把握

母校の校風を意識した大学運営を願いたいものです。校風が学生や卒業生に大切に継承されれば、母校の価値は高まるでしょう。そうした校風を嫌う学生や卒業生もいるようですが、それとても「校風」あればこそその自己主張でしょう。(私立大規模大学:卒業生組織自由記述)

大学にとって「校風」は絶対的なものではない。継承もできるし刷新もできる。  
強調も可能だし、無くても支障は無い。

大学は自らの個性化・活性化のために、それぞれの校風をどう見きわめ、活かすか。  
そこに様々な可能性と課題がある。

ご清聴ありがとうございました。

- 大川 一毅（岩手大学 評価室）
- 大野 賢一（鳥取大学 大学評価室／学長室IRセクションリーダー）
- 畠田 敏行（茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門）



本報告は、令和4年度 科学研究費助成事業 基盤研究（C） 一般 課題番号 22K027051  
『「大学校風」の指標可視化と大学評価への活用に向けた実証的研究』の一環として行っています。



## 参考資料：校風認識に関わる大学独自の取組・活動（自由記述1）

### 教育活動

- ・附属小・中・高・支援学校における教育実習（国立小規模大学）
- ・建学の精神を理解するための講義科目が設けられている（私立中規模大学）。
- ・学部の特色を生かした他学科への科目提供（私立小規模大学）
- ・ゼミ、寮や課外活動等とおして母校への帰属意識を維持。それができるかが「校風」継承につながる。（私立中規模大学）

### 学生支援、学生と卒業生との連携

- ・学寮の設置（私立小規模大学）
- ・卒業生組織による、部活動の支援。卒業生組織による奨学金の設置（私立大規模大学）
- ・同窓会が主催する収益事業で、学生達に奨学金を給付。大学内で将来就職する際に必要な資格取得支援講座を開講。（私立女子大学）
- ・卒業生の経験や仕事の内容を講義する講座を毎年12回同窓会が企画し、講師の費用を負担している。（国立中規模大学）
- ・コロナ禍にあっては地元自治体と一体となって学生への支援を行った。（国立中規模大学）
- ・毎年デザイナー自立支援を行っている。（私立小規模大学）

### 地域との交流・ボランティア

- ・地域に根差した大学として、地域への就職支援などを活発に展開（国立中規模大学）
- ・さらなる地域課題解決への貢献（私立大規模大学）
- ・コロナ禍にあっては地元自治体と一体となって学生への支援を行った。（国立中規模大学）
- ・研究内容を活かした地域との交流、連携（私立大学）
- ・学生募集活動への校風活用、地域へのアピール（国立小規模大学）

## 歴史・継承、自校教育

- ・歴史と伝統がある大学に所属していて、心穏やかに仕事に向かえるのは、キャンパスの美しさにもあると思っています。古い樹木、草花が四季折々にその姿を変え、自然豊かなキャンパスで学生たちが集う姿をみると、「校風」を感じます。キャンパスの自然図鑑を作りたいと思うくらいです。このアイデアかなり良いと思っています。(私立小規模大学)
- ・私立大学ですので、母校の校風を意識した大学運営を願いたいものです。校風が学生や卒業生に大切に継承されれば、母校の価値は高まるでしょう。そうした校風を嫌う学生や卒業生もいるようですが、それとても「校風」あればこそその自己主張でしょう。(私立大学)
- ・本学では「社会規範教育」を掲げ、その中で自校教育にもとづき挨拶、掃除道、ボランティア活動等を取り上げ、社会に貢献する女性医人の育成に努めています(私立中規模医科大学)
- ・学生は大学の理念や歴史を認識せず、共通テストの成績を踏まえた高校の進路指導のもとに進学してきます。母校の歴史を認識する自学教育が普及定着するといいいですね。大学を卒業して、母校の校風を知らずして身につけていると、きつといい大学と言われるでしょう。(国立中規模大学)
- ・私学の建学の精神が国の政策により、また少子化により、存在感がない状態に陥っているという現状危機感がある。すべてが同じ学生を育成しようとしている。(私立小規模大学)
- ・母校は、キリスト教系のミッションスクールで、高校から内部進学したためあまり感じていなかったですが、キリスト教の教えが学生生活や、校風に現れていたと、自分が大学職員になって感じます。具体的には、大学構内の掃除がいきわたっていたり、他者への尊重や社会貢献への熱意がありました。現在勤務している大学は、重視していないとは言いませんが、最重要事項として重んじている感覚はありません。それよりも、努力を継続させること、学生の主体性や自主性をはぐくむことに重きを置いている気がします。それは、本学の建学の精神を学内外へ意識的に発信しているからかもしれません。(私立中規模大学)

27

## 参考資料: 大学校風に関する自由記述(1)

### 公立中規模大学(「旧制大学」として戦前に設置) 卒業生

アットホームなこじんまりとしていた環境で落ち着けました。キャンパスも1つで済み、広さも適度だったので、歩いてれば友人に会えるので楽しかったです。公立大学でしたが、全国から有名進学校出身者が多くて刺激を受けました。就職氷河期でしたが先輩たちが一流企業に内定もらっているのを見て、意外と評価されてるのだと実感しました。過去の先輩たちが築き上げてきた信頼だと思います。卒業してからも先輩・後輩とたまに会って飲むことが楽しいです。

### 国立中規模大学(新制大学として昭和期に設置。前身は旧制専門学校として明治期に創設) 同窓会関係者

大学といっても各学部ごとに歴史や風土・文化などが大きく異なる。しかも教員の構成が年々変化するのでそうしたものも変化している。しかしながら底流にあるものはしっかりと守っていきたいと思う。

### 私立大規模大学(「旧制大学」として戦前に設置) 職員

昨今、大学にどこに入っても同じというような、均一化を感じることもあるが、「校風」は大学を表す象徴的な特徴であり、「校風」が確立されているならば、大学の差別化は図られると思います。

### 国立大規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 同窓会関係者

母校は、藩校、旧制高校からの歴史のある学校です。OBや教職員が、「市街地中心部から郊外に移転してしまい独自色が薄まった」と嘆いていたことを思い出しました。それでも在校時から歴史とプライドは学生に脈々と受け継がれていると感じています。

### 国立中規模大学(「旧制大学」として戦前に設置) 同窓会関係者

母校は旧制高校でしたが、キャンパスも移動してしまい、歴史的なつながりがある校風(たとえば校歌を宴会のときに歌ったりする行為)はなくなってしまったように思っています。一方、勤勉さや誠実さなど、人として大切なものは校風として引き継がれていると思います。

### 国立中規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 同窓会関係

同窓会関係同窓会の運営にも影響するが、最も重要な原則は母校愛であり、多世代に亘りその心は受け継がれ、それが校風にも影響している。

28

## 参考資料: 大学校風に関する自由記述 (2)

### 私立中規模大学(平成年代以降に設置) 大学職員

本学は2007年に開学した比較的新しい大学であり、開学後も順次医療系の学科を設置し続け規模を拡大してきました。そのため、学科によっては卒業生が少なく、教職員も近年本学へ赴任・就職された方が多く、全学的に統一された校風・共通認識の定着は、まだまだ発展途上ではないかと思えます。今後歴史を重ね、卒業生が本学教員として就職するケースや教職員が大学へ定着することで大学校風が徐々に形づくられるのではないかと思えます。

### 国立中規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 大学教員

「新制大学」として戦後昭和期に設置された国立大学にしては、校風が明確です。そのことに気がつく学生は少なく、これを示唆する教員もいません。卒業生(組織)が、校風継承に重要な役割を担っています。教員にこの大学の出身者が少なく、「母校意識」も皆無で、あわよくば「転任」してしまう現状であり、教員が校風の継承の役割を担うことは困難かもしれません。教員も執行部も、校風などには無頓着です。

### 国立中規模大学(「旧制大学」として戦前に設置) 大学職員

校風を感じるほど前面に出すのがいいのか、校風を感じさせないような校風が良いのかわからない時があります。今は 尖った大学が評価される時代ですね。

### 私立大規模大学(「旧制大学」として戦前に設置) 大学職員

いわばその大学の歴史と感じます。そこには長短ではなく、どの時代をどういった信念に基づいて高等教育の分野を担ってきたかが重要であると感じており、積み重ねが将来の校風を作り、ブランディングに繋がっていくものと思っています。

### 私立中規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 大学教員

古い卒業生は大学が大好きで、後輩思いの方が大変多くいらっしゃり、「自分のためだけに働く」のではなく、「他者のために自信を犠牲にして奉仕する」気概があることも本学の校風に少なからず影響をもたらしているのではないかと思えます。

29

## 参考資料: 大学校風に関する自由記述 (3)

### 国立中規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 大学教員

「実際にこれまで考えた事がなかった。」

### 私立小規模大学(平成年代以降に設置) 大学教員

現在勤務している大学では教職員と学生との距離は非常に近いのですが、カリキュラムの都合上、学修以外のイベントが少なく、一体感を感じる機会が少ないように思えます。先述しましたが医療系の大学では「校風」を打ち出すのが非常に難しく(国家試験合格など他に優先すべき事項が多いので)、同じ県内でも他大学との違いを見出すのに本学も苦勞している印象です。開学したばかりで歴史が浅いので、今後学生が国家試験合格だけではなく、人としての成長を得ることが出来るような、唯一の大学になっていけば、と思います。あまり考えたことはなかったのですが、本学について振り返る良い機会となりました。

### 私立小規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 大学教員

新設大学での教員経験もありますが、「大学校風」は、学生によって創られることを実感しています。大学の理念、建学の精神など当然教職員が共有したうえで、学生をどう育てていくのか議論し続けていました。結局、在学生が何を成してきたか、卒業生がどう活躍しているのかが答えになっていたように思えます。現在、歴史と伝統を掲げる大学に所属していますが、「うちの学生は、優しい、穏やかな雰囲気がある(ボヤボヤしているなどとも言います)」であるとか「うちの卒業生らしい」とか教員同士でよく話をします。歴史や伝統など重たいもののように感じますが、そこに、学んできた人たちの醸し出す雰囲気のようなものが目に見えない形で「校風」となっているようにも感じます。もちろん、それが、理念とか建学の精神だとかを体現化したかたちなのかもしれません。

### 公立小規模大学(平成年代以降に設置) 大学教員

「小規模大学だからこそ、時代や教職員による校風への影響が大きく感じます。」

### 公立小規模大学(平成年代以降に設置) 同窓会関係

田舎でおとなしく質素な学校ですが、その分まじめな学生が多く、地元の医療施設に就職し、管理者へと成長していくため地域からの信頼が厚いと思います。

30

## 参考資料: 大学校風に関する自由記述 (4)

### 公立中規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 卒業生組織

40年前の国立大学はいい意味でも、悪い意味でもおおらかだった。成果主義の現在では生きていけないような教員がたくさんいたが、その先生方との交流が自分の大いなる心の財産となっている。

### 国立小規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 大学教員

「校風」というものを明確に意識したことがありませんでした。近年、大学のミッションを重視する傾向が強まっており、その1つとして校風を明確化することは有用に感じられました。

### 私立中規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 卒業生組織

比較的卒業生の母校愛が強い大学と思いますが、何がそれを作ったのか思い返すと結局は関わった人との交流がそれを作ったなと感じます。

### 私立中規模大学(「旧制大学」として戦前に設置) 卒業生組織

大学の歴史や伝統が校風に反映され、それを継承していくことが今までの在り方だったかもしれないが、時代は変わり学生数も減少していく中、それに固執するよりも、時代やその時代の学生の資質に合わせた校風に変容させていくことがこれからは大事なかもしれない。

### 私立大規模大学(「旧制大学」として戦前に設置) 卒業生

高校が「受験、進学」を第一義においた教育指導であり、偏差値がすべての「物差し」でした。それに対し、入学した大学は、価値観も人物も多様でそれぞれが尊重、評価されていることに興奮しました。こうした校風をいつまでも保ち続け、輝き続けてほしいものです。そうした母校を卒業生は支援します。

### 私立中規模大学(「新制大学」として戦後昭和期に設置) 大学職員

建学の理念が継承されながら、時代にあった大学の長が【校風】として感じられるのが何よりだと思います。不思議なことに、学生の雰囲気からが一番【校風】を感じられますが、そこを育成する教職員からは、「建学の精神」を忘れがちになり、研究等・業務の在り方向き合い方の価値観に、【校風】が隠れてしまっています。学生とともに観察し続けることで、この部分が随分解消されると考えます。ただそれをどう、実施していくとよいのか、難しい限りだと感じます。

31

## 参考資料: 自由記述「継承してほしい校風」(校風活用を検討する手がかりとして) (1)

設問: 在学生やこれからの入学生に、継承してほしい校風があれば記載して下さい。

### 学生像

- ・資格取得(専門性を有する職業に就くためには、学生から社会人になってなぜ必要なのか。教員指導を通して理解出来るようになってほしい。
- ・大学の校歌、応援歌。(歌える学生が減少しているので、同窓会で校歌復活P.J.などを企画し実行せざるを得ない状況)
- ・学生の個性を尊重して、後押しする校風。
- ・大学の所在地の西巢鴨から巢鴨までの商店街を含むエリアをオールキャンパスとして、学生が活動すること。
- ・ボランティア系サークルが多い特長は継承してほしい。さすが医療系、「人のためになる」精神の学生が多いと思った。
- ・思いやりの心(あいさつ・ゴミのないきれいなキャンパスにも通じていると思う、来訪者を学生が部署まで案内してくれる)。

### 建学の精神

- ・医療系の本学では、医療に携わるための国家資格取得を目的としており、建学の精神である「社会に役立つ奉仕の精神」を養う校風を持ち続けてほしいと願っています。
- ・建学の精神を胸に、社会で活躍してほしい。
- ・学内に残る歴史的建造物そのものの継承、建学の精神。
- ・大学の理念「至誠と愛」、建学の精神「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」のさらなる継承。

### 自分自身のために

- ・もっと自分の興味のおもむくまま学生生活を送ってほしい。
- ・自分の「好き」を見つけとことん追究し楽しむ姿勢。
- ・逆に継承して欲しくないことなのですが、本学学生は自分や自学を卑下することが多いように感じます。確かに偏差値やレベルの高い大学ではないかもしれないけど、いい大学だと思っているので、そんなに下にして話さなくてもいいのになと思います。謙虚とはまた違うように感じます。
- ・キリスト教人間観に基づく他者を思いやる校風(自分も他者もごたいせつな存在であることを大切に思う心)。

### 大学への願い

- ・教職員との距離が近く、あたたかい学校(大学)という点。
- ・建学理念「大学は学問を通じての人間形成の場である」を常に念頭に置き実践してほしいと願っています。
- ・1. キリスト教教育 / 2. 地域に愛される大学。

32



## 参考資料:自由記述「継承してほしい校風」(校風活用を検討する手がかりとして)(2)

設問:在学生やこれからの入学生に、継承してほしい校風があれば記載して下さい。

### 精神性、スピリット

- ・人間たれの精神を継承し社会に貢献して欲しい。
- ・人間愛の精神
- ・医療系の本学では、医療に携わるための国家資格取得を目的としており、建学の精神である「社会に役立つ奉仕の精神」を養う校風を持ち続けてほしいと願っています。
- ・建学の精神を胸に、社会で活躍してほしい(「建学の精神」記載と重複)。
- ・学内に残る歴史的建造物そのものの継承、建学の精神。
- ・不撓不屈の精神。
- ・キリスト教の愛の精神。
- ・ボランティア系サークルが多い特長は継承してほしい。さすが医療系、「人のためになる」精神の学生が多いと思った。
- ・大学の理念「至誠と愛」、建学の精神「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」のさらなる継承。

### 独自の校風

- ・校風の軸にあるキリスト教のこと、創立者の宣教師のことなど、大学の歴史について知ってほしい。
- ・自ら未来を切り開いていく気概を持って海外留学にチャレンジする校風、ダイバーシティを重んじ、他社を尊重したコミュニケーションを心掛ける校風。
- ・奈良春日山の麓にあるキャンパスでは、鹿が自由に草を食んでいる。のんびりとした校風を、大事にして欲しい。
- ・実学と高度な専門性を重視した校風。
- ・医療系の本学では、医療に携わるための国家資格取得を目的としており、建学の精神である「社会に役立つ奉仕の精神」を養う校風を持ち続けてほしいと願っています。
- ・学生の個性を尊重して、後押しする校風。
- ・落ち着いた校風(ちゃらちゃらしていない)
- ・キリスト教人間観に基づく他者を思いやる校風(自分も他者もごたいせつな存在であることを大切に思う心)。
- ・教育に対する熱意と努力を大切にす校風。